こちららではやっと、桜の花が咲き始めました。

三陸鉄道 南・北リアス線—全線再開 暮らしを守る希望の鉄路

「東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県の三陸鉄道（三鉄）が4月5日・6日、3年ぶりに全線開通した。（電車通学をする高校生の新学期に間に合わせての開通です。）震災5日後から一部で復旧し、地域の足となってきた三鉄。人口減で厳しい経営は続くが、復興途上の被災地でどんな役割を果たすのか。望月正彦社長（62）に聞いた。

全線が復活した今月6日、各駅や線路沿いに地域の方がたくさん出て、大漁端を振って歓迎してくれた。うれしかったですな。鉄道の存在感というか潜在力、地域に与える希望の大きさを実感しました。

（部分開通ができるかどうか）社員は半信半疑でした。でも震災5日後、一部区間で動かすと、住民から「助かった」「ありがとう」と言ってもらいました。

3年で復活させる計画を立て、①全線で復旧する②被災状況に合わせ順次延伸する③ルートは変えない、の3点で沿線市町村から内諾を早々にとった。

復旧工事では予定価格よりもかなり安く応札してくれたゼネコンがあった。理由を聞くと、「実は30年前にうちが造った。そこが流されたので自分達で直したい」と。心意気にびっくりしました。

被災直後は「三鉄はもう終わり」という話が聞こえてきました。しかし、全国から多くの応援、支援があり、そういった声はなくなった。世論の後押しがあったから、政治家も91億円の復旧費を全額出す決断をしたんだと思います。

続く赤字 目標は高く 皆さん、どうか三陸鉄道に乗りに来て下さい！

全線で運転を再開したが、経営はかなり厳しい。あまちゃん（NHKの連続テレビ小説）効果があっても乗客は震災前の6割で20年連続の赤字。沿線は人口減少が続いている。

それでも、地域の復興に鉄道は必要と考えています。知る限り、国鉄改革以降、国内で鉄道が廃止されて栄えた街はないんです。鉄道がなくなると、地域は急速に衰退してしまう。

「バスでもいいのでは」という意見もあるが、鉄道には安全安心や定時性、速達性、大量輸送といった優位性がある。加えて、三鉄には観光鉄道。震災前は1割アがツアー客。泊って食べて、お土産を買ってくれる。地域にも貢献しているわけです。車と鉄道のバランスが大事です。

日本では長年、（JRは）儲からない路線は地方に押しつけてきた。その結果、鉄道はどんどん廃止され、過疎が進んだ。しかし、地域交通確保を目指す交通政策基本法が昨年できた。地域の暮らしを守るため、国は存続の仕組みをつくるべきだと思います。」（「朝日新聞」14年4月28日付け）

皆さん、どうか三陸鉄道に乗りに来て下さい。ついでに気仙沼にも！